

傍聴者からの主な感想等（令和元年度第3回総合教育会議）

- ・ICT教育の必要性は感じるが、具体的にどの教育段階で習得させるか、どの範囲まで対象とすべきか、検討が必要であると感じた。
- ・現在、日本語を知らない日本人に英語で会話できる能力を求めようとしている状況で、そもそも何の知識の習得を優先するのか整理すべきではないか。
- ・学力向上についての議論の中で、委員から貴重な意見を多く聞かせてもらった。
- ・食物の摂取の内容が読解力に影響を与えるとの話題が挙げられたが、その延長線上には、経済力格差の影響もあり得るのではないかと感じた。
- ・不登校の児童、生徒については、その不登校になっている原因を明確に分析してから対策を講じるべき。
- ・具体的な報告や事案がなさすぎるのではないか。
- ・委員に対して事務局側の人数が多いが、報告事項等もなくただ参加しているだけだという印象を受けた。
- ・もっと活発な意見交換となることを期待していた。
- ・本総合教育会議は、学力テストの結果（点数）を上げるための話し合いの場となっているという印象が強かった。教師は、一人一人の子どもたちがどれだけ成長したか、どれだけ理解できたかを毎日の学習活動の中で評価し、把握しているはず。また、学力を図る指標であるテストも、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）だけではない。
- ・学力テストの結果を公表することで、「教師の立ち位置を知る」という観点は理解しがたい。自分の学校の点数を知ることが、子どもたちへの教育力を高めることになるという視点も理解に苦しむ。学力テストの結果は、教師や学校だけの問題ではないということのを頭に置く必要がある。
- ・学力テストの結果を公表することで、点数自体が教師や学校の評価となってしまう恐れがある。また、同じ教師が工夫を重ねて同じ学年を担当しても、テストの結果が同じになるとは限らず、教師の工夫による効果が明らかに結果に表れるとも限らない。さらに、現場に立つ教師にとっては、点数至上主義となることで精神的に追い詰められてしまう。
- ・学力テストの結果を公表することについて、プラス面はない。なぜなら教師は、公表されなくても「平均」を知っている。また、点数が低かったのはどこの学校であったのかを探りたい人が出てきたり、それが判明した場合、点数が低い学校の子どもたちに劣等感が生まれてしまうことも否定できない。さらに保護者にとっても、決して気持ちのよいものではない。